

## C病棟の特徴

### 1.患者アメニティの向上

- 病室は、6床室を解消して1床室、2床室(回復期リハビリテーション病棟のみ)、4床室としました。
- 各フロアに面談室、家族控室を設置しています。
- スタッフステーションはオープンカウンター方式とし、スタッフに話しかけやすい環境作りをしています。

### 2.病棟機能の向上

- C病棟、D病棟の各スタッフステーションをスタッフ通路で結び、スタッフが機能的に行動できるよう工夫しています。
- SPD専用棚をスタッフ通路に設置し、効率的な物品管理ができるよう努めています。
- 画像配信設備を配備しているため、電子カルテ化に対応できます。

### 3.医療安全面への配慮

- 個室等には酸素・圧縮空気・吸引の医療ガスアウトレットを複数設け、医療事故防止に万全を期しています。
- インテリジェントナースコールを導入し、迅速に情報伝達ができるシステムを構築しています。

### 4.回復期リハビリテーション病棟の開設

- 国立大学附属病院で初となる回復期リハビリテーション病棟を2C病棟に開設しました。これは、家庭復帰や社会復帰をめざし

て集中的にリハビリテーションを行う病棟です。滋賀県からの要請である高度で専門的なリハビリテーションを実践するため、また患者さんの転院等に伴う負担を軽減し、患者さんにとって十分満足していただけるために、効率的なリハビリテーション環境を整えました。

- 病室にはトイレを設けず病室面積をできるだけ大きく確保しています。これにより、車椅子でもベッドサイドまで入ることができます。またトイレを病棟中央部分に設けることで、歩行訓練等がより効果的に行える工夫をしています。
- 安全面への配慮として、廊下の手すりは2段型で握りやすいものを採用し、浴室内には手すりを多く設けています。トイレ等の手洗いは、車椅子の患者さんでも不自由なく利用していただける高さに設置しています。

### 5.C病棟改修のポイント

- 既設病棟の構造を最大限に活かした改修工事を心がけました。窓枠や壁等そのまま使用できるものについては手を加えず、必要な箇所だけ手を加えることで、改修コストを大幅に抑えることができ、かつC・D病棟が一体となり調和のとれた内装に仕上げることができました。



# Shiga University of Medical Science Hospital

## 滋賀医科大学医学部附属病院

### 建物概要

建物面積	1,145.32 m <sup>2</sup>
延床面積	6,767.39 m <sup>2</sup>
構造・階数	R(コンクリート造)6階建
工期	平成19年9月～平成20年3月
病室数	1床室32室、2床室3室、4床室43室

基本計画	滋賀医科大学施設課
実施計画	建築 (株)内藤建築事務所
	電気 (株)総合設備コンサルタント
	設備 (株)総合設備コンサルタント
施工	建築工事 (株)竹中工務店
	電気工事 住友電設(株)
	機械工事 大冷工業(株)

## 既設C病棟改修概要

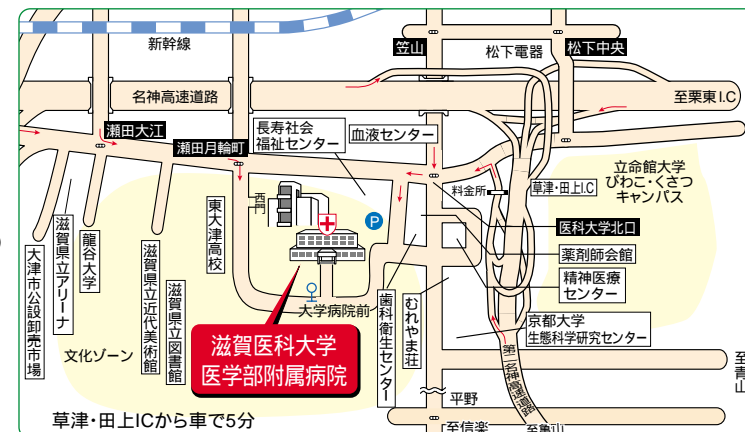


### JRの場合

JR東海道本線(琵琶湖線)京都駅からJR瀬田駅まで約20分(各駅停車)  
JR瀬田駅から大学病院前までバス約15分

### 自動車の場合

京都方面から 名神高速道路・瀬田西インターから約10分  
名神高速道路・草津・田上インターから約5分  
彦根方面から 名神高速道路・草津・田上インターから約5分  
名神高速道路・瀬田東インターから約10分



### 滋賀医科大学医学部附属病院

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町  
TEL.077-548-2111(代表)  
<http://www.shiga-med.ac.jp/hospital/>



